

フューチャー・デザインを活用した 財政教育×模擬選挙の実践と 社会実装への展望

～政策選好と投票行動の関係に着目して～

学生団体 財政教育フロンティア
服部将昌 中田裕己

2026年9月6日





団体紹介と実践の背景

財政教育×FD×模擬選挙の設計

結果と考察

構想

学生団体財政教育フロンティアとは？



設立

N高政治部での活動を発展させる形で2025年4月に設立

組織

任意団体・運営4名、コミュニティ55名 ＊主に高校生～大学生

理念

教育から財政を“自分ごと化”し、
財政・社会保障を持続可能にすることで、将来に責任ある社会を創る

活動

政策立案・提言のほか、財政やFD関連の企画運営、コミュニティ運営

公式サイト：<https://zaisei-edu-frontier.com/>

公式Instagram：<https://www.instagram.com/zaisei.edu.frontier/>

日本の未来を救う、新たな財政教育の提言

—財政教育の拡充による持続的な財政社会保障の実現へ向けた提言—

N高等学校 服部将昌 中田裕己

学生団体財政教育フロンティア（仮）



財政教育フロンティアとしてのこれまでのFDの実践

2025.07

- ・ 財政教育×FD×模擬選挙
- 「参院選直前！リアル模擬選挙
ミライ視点で“今”を見つめる『財政・社会保障』」



2026.01

- ・ 財政教育×FD×金融経済教育
- 「財政・金融経済教育～日本の経済を将来視点で学ぼう～」



2026.07

- ・ 財政教育×FD
- 「『2050年、あなたはどんな日本で暮らしたい？』
—財政教育×フューチャーデザインで考える日本の未来—」



2025.07 参加者17名

財政教育×フューチャーデザイン×模擬選挙

参院選直前！リアル模擬選挙 ミライ視点で“今”を見つめる『財政・社会保障』

財政教育

財務省職員による
財政の基礎講義



フューチャー デザイン

仮想将来世代
としての政策議論



模擬選挙

参院選2025の各党の
公約へ模擬投票

point

フューチャー・デザインと**模擬選挙**の組み合わせ
(2025年参院選の各党の財政・社会保障政策を題材に実施)



教育やFDによる意識の変化は、投票行動まで繋がるのか？

政策選好

財政教育・FDによって
政策の選び方は変わるか



投票行動

政党名なども踏まえた
投票先の選択も変わるか

政策選好は変わるのか？
投票行動も変わるのか？

実践の流れ

①事前調査

当初の認識と政策
選好の確認
(アンケート)

②情報提供

財政・社会保障の
基礎講義

③政策比較

各政党の政策の
提示・解説
(参院選公約)

④FD

フューチャーデザイ
ンワークショップ

⑤政策選好

政党名を伏せ
政策内容のみで選択

⑥模擬投票

政党名を
示した投票

* 政策選好は、政党名を伏せて政策内容のみ選択。模擬投票は政党への投票として選択。
(双方で示している政策内容は同一、政党名を冠しているか否かが差異)

理解・意識

制度理解、当事者意識、将来世代への関心
手法→事前事後アンケートの比較、参加者の感想

政策選好

政党名を伏せた政策内容の選択
手法→事前アンケートと政策選択の比較

投票行動

政党名を示した模擬選挙での選択
手法→政策選択と模擬選挙結果の比較

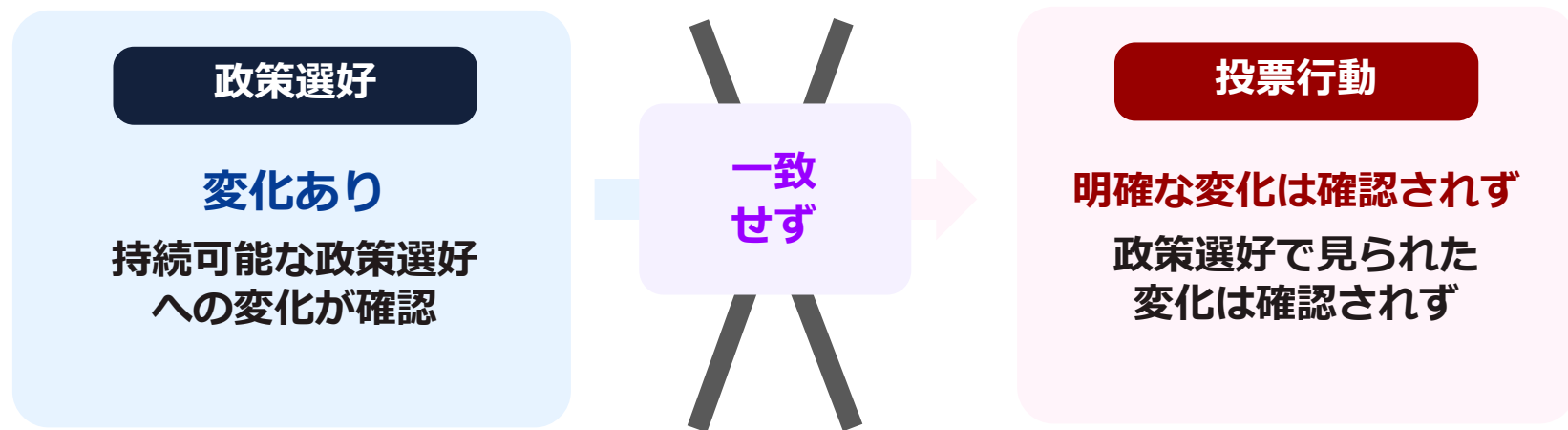
参加者の感想

「財政というと遠いものだと感じていたが、とても身近なものであることを実感した。**未来の視点から現在に戻り、票を集めるため（の政策）だけでなく実現可能なのかを考える必要があると学ぶことができた。」**

「**未来の視点から現在について考えていた際に、財政政策と社会保障がいかに自分の生活に紐づいているのかが実感できた**」

参加者の感想からは、財政・社会保障への理解や当事者意識が深まるとともに、将来世代の視点から政策の実現可能性を考える姿勢がうかがえた。
事前・事後アンケートにおいても、制度理解の向上と制度の支え手としての当事者意識の向上が確認された。

政策選好は変化したが、投票行動には結び付かず



政党名を伏せた政策比較では、財政的な持続可能性を重視する方向への変化が見られた。
一方、政党名を示した模擬投票では、その変化は投票先に明確には反映されなかった。

なぜ政策選好と投票行動が一致しなかったのか？

→投票は、財政・社会保障政策だけでなく、政党への信頼・従来の印象など、さまざまな要素を含む総合的な判断によって決まる

財政・社会保障政策への評価

政党への信頼・従来の印象

投票行動

他分野の政策や争点

候補者・価値観・地域性など

政党名を伏せた政策比較では、財政・社会保障政策の内容が主な判断材料となった。一方、政党名を示した模擬投票では、政党への信頼や従来の支持、他分野の政策、候補者、価値観なども判断に加わった可能性がある。（今回の模擬選挙では各党の財政・社会保障政策のみを参照して投票するよう促したが、その前提が崩れた可能性がある）

このため、FDによって財政・社会保障政策への評価が変化しても、その変化は投票先を決める複数の要素の一つにとどまり、投票行動には明確に反映されなかったと考えられる。

今回の実践から考えるFDの効果とその範囲

期待できる効果

- ・ 将来世代の立場から政策を考える
- ・ 政策を見る視点や判断基準が変わる
- ・ 財政的な持続可能性への意識が高まる
- ・ 将来を見据えた議論の土台が生まれる

今回確認できなかった効果

- ・ FDによる政策選好の変化が、そのまま投票行動につながる事
- ・ FDだけで個人の政治行動を直接変える事

・ 今回の実践からは、FDが将来世代の視点を付与し、**各政策に対する意識の変化や、中長期的な社会課題を議論する土台の醸成に寄与する可能性が示唆された。**

・ 一方、政策選好の変化が投票行動の変容に繋がるとは限らないため、**FDに投票行動の変容までを直接求めることは適切ではない。**

・ しかし、選挙によって代表者を選ぶ**民主主義のもとでは、政策選好の変化が投票行動に表れなければ、FDによって生まれた将来世代の視点が、実際の政策に反映されにくいという課題が残る。**

FDの社会への浸透と、政策形成過程への導入を両輪に

市民・若者

FDの理念・考え方を
社会に広げる

財政教育+FD
教育現場・イベント・
住民対話など

政治家・政党・行政・審議会

政策形成過程に
FDを導入する

政策立案・予算編成
審議会・委員会など

将来世代の視点が、政策に継続的に反映される仕組みへ

次の一歩

政策形成に関わる人々を対象としたFDワークショップの試行

政策形成に関わる人々へ向けたFDワークショップ構想

目的

政策形成に関わる人々が、FDの理念と手法を知り、実際に体験することで、その有用性や課題への理解を広げ、政策形成過程への試行的な導入と将来的な制度化につなげる。

- | | | |
|-------|-------|-----------------------------|
| Step1 | 認知・体験 | 政治家・政党・行政関係者らにFDを知り、体験してもらう |
| Step2 | 理解促進 | FDの意義や政策形成への応用可能性を理解してもらう |
| Step3 | 機運醸成 | 理解者・協力者を増やし、試行導入の機会をつくる |
| Step4 | 制度化 | 政党・行政・審議会などの政策形成過程にFDを定着させる |
| | 効果検証 | 導入に必要な条件や課題、適切な実施方法を把握する |

【 第一歩：政治家向けFDワークショップ構想

対象

政治家・政党・行政関係者など、政策形成に携わる人々
(若者・学生との対話を組み込む形式も検討)

形式

- ①講演 (FD解説)
- ②FDワークショップ
- ③交流会

実現に向けた
検討課題

- ・参加者の確保
- ・政治的中立性の担保
- ・政策テーマの設定などワークショップ設計
- ・実際の政策形成への接続
- ・運営体制と効果検証

※本構想は、現在検討段階にあります。構想の具体化と、その先の政策形成過程へのFD導入を見据え、皆さまからご意見をいただければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました